

『北九州市サステナブル経営認証制度』 の取組

2025年1月22日



北九州市サステナブル経営認証制度

テーマ：関係者との対話を通じた段階的な制度設計



サステナブル経営認証制度募集チラシ

背景・取組概要

北九州市は、宣言登録認証制度ガイドラインが公表される以前の2018年より、地域企業のSDGsに取り組む意思を宣言する仕組みとしてSDGsクラブを創設し、運用してきた。その後、当該クラブの会員である地域金融機関と協定を結び、連携しながら、2021年には企業が自社のSDGsの取組を「見える化」するSDGs登録制度を創設するなど、内閣府と協議を進めながら地域企業にとってメリットが大きい仕組みづくりを模索してきた。

しかしながら、これらの制度は、企業の自己評価（自社の取組に対する現在地の確認）に留まることが多く、社会課題の解決や投融資といった金融との結びつきが弱いことが課題であった。そこで、企業が、市（専門家）や商議所等の伴走支援（経営支援・コンサルティング）を得ながら、第三者である中小企業診断士やコンサル事業者等による評価及び大学教授や金融機関、投資家等による審査を経て、最終的にはインパクトの創出につなげる、企業の本業による利益追求と社会課題解決の同時実現（SX）を目指した「北九州市サステナブル経営認証制度」を構築した。

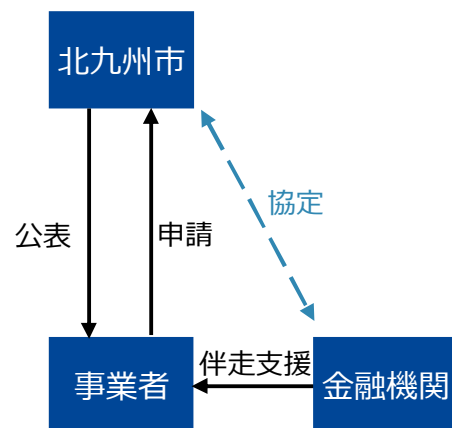
今地域事業者は、【①:社会課題に対する自社の取組評価（自己診断）を踏まえた体制整備、②:自己診断を通じてマテリアリティ（優先課題）を特定、③:その課題の解決（インパクト創出）に向けたロジックモデルを作成、④:①～③までのプロセスが評価・審査され、第一段階目の認証を取得、⑤:ロジックモデルに沿った取組の毎年の進捗報告、⑥:インパクト創出への成果が審査され、第二段階目の認証を取得】する回構築した認証制度を通じ、ことで、経済成長と社会課題解決に向けた取組が可視化される。

取組の全体像

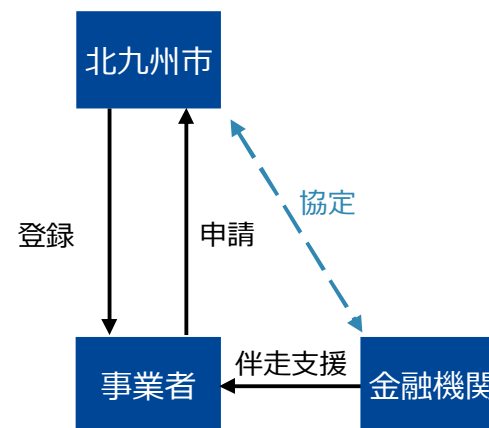
参画者

福岡県北九州市 地域事業者 大学教授
 コンサル事業者 社会保険労務士 中小企業診断士
 北九州市金融機関(21行)
 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、アクサ生命保険株式会社、株式会社北九州銀行、住友生命保険相互会社、損害保険ジャパン株式会社、第一生命保険株式会社、大同生命保険株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、株式会社西日本シティ銀行、日本政策金融公庫、日本生命保険相互会社、株式会社広島銀行、株式会社福岡銀行、福岡ひびき信用金庫、株式会社みずほ銀行、三井住友海上火災保険株式会社、株式会社三井住友銀行、三井住友信託銀行株式会社、三井住友ファイナンス&リース株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、明治安田生命保険相互会社

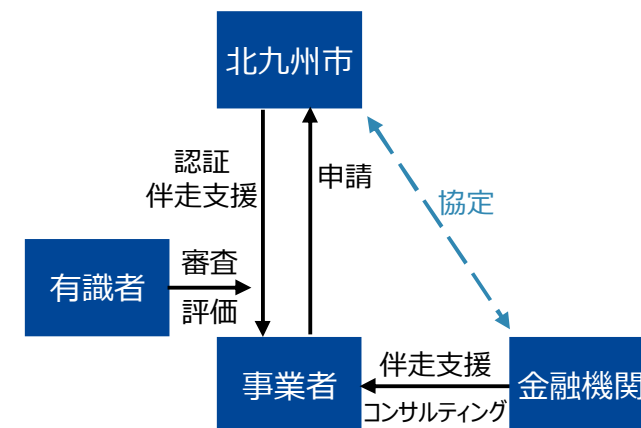
<SDGsクラブ>



<SDGs登録制度>



<サステナブル経営認証制度>



北九州市の先駆的な取組

2018年

SDGsクラブ

宣言



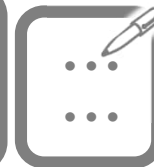
産官学民のプラットフォーム

SDGsに取り組む
意思を宣言

2021年

SDGs登録制度

登録



SDGsの取組見える化

SDGsの取組を
表明・自己評価

2024年

サステナブル経営認証制度

認証



SXを推進する企業の創出

“経済成長と社会課題解決の両立”
に向けた体制整備・インパクト創出



北九州SDGsクラブ創設と金融機関との連携

SDGsの達成に向け、SDGs達成に向けて取り組む
団体・企業・個人等が参加できる組織を創設

北九州SDGsクラブ (2018.11～)



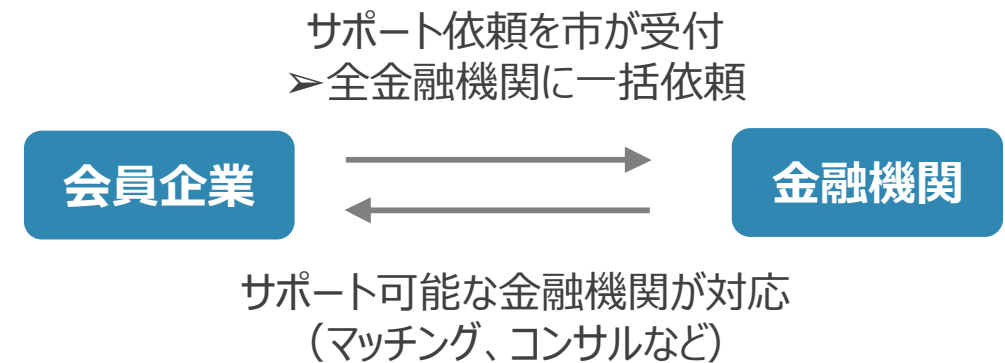
会員数：2,315 (2024.11時点)



【背景】
SDGsクラブ創設後、
市内の複数の金融機関から
SDGsを推進するために
協力体制を構築したい旨の
申し出
▶クラブ会員である金融機関
に連携協定締結を提案し、
いずれの金融機関とも締結

企業のSDGs経営をワンストップでサポート

SDGs経営サポート (2020.1～)



サポート利用件数
14件 (2024.1時点)

連携協定締結金融機関

▶市内の都銀、地銀、生保、損保等

あいおいニッセイ同和損害保険(株)、アクサ生命保険(株)、(株)北九州銀行、
住友生命保険相互会社、損害保険ジャパン(株)、第一生命保険(株)、大同生命(株)、
東京海上日動火災保険(株)、(株)西日本シティ銀行、日本政策金融公庫、
日本生命保険相互会社、(株)広島銀行、(株)福岡銀行、福岡ひびき信用金庫、
(株)みずほ銀行、三井住友海上火災保険(株)、(株)三井住友銀行、
三井住友信託銀行(株)、三井住友ファイナンス&リース(株)、(株)三菱UFJ銀行、
明治安田生命保険相互会社

北九州SDGs登録制度の創設

ESG投資・脱炭素の潮流を踏まえ、SDGsの達成に寄与する市内事業者の取組を「見える化」することで「自律的好循環」を実現
▶SDGsの普及、中小企業の競争力向上、社会課題の解決と地域活性化を図る（2021.8～）

- 対象：市内の本社又は支店等を有し、市内で事業活動を行う企業・団体
- 有効期間：登録日から3年間

連携

市 金融機関 商議所

制度の構築・運営・進捗管理、全体調整
取引先等への周知、申請・登録後の伴走支援
会員企業への周知、申請・登録後の伴走支援

《登録の要件》

- 「経済・社会・環境」を網羅した12項目に関連する自社の取組の可視化と北九州市基本計画との紐づけ
- 「経済・社会・環境」の三側面で重点的に取り組む内容を宣言
- SDGsの達成や地域課題の解決のためのニーズやシーズを明記

効果

- 自社事業とSDGsの関連性の明確化
- 方向性・貢献度を、市と企業が共有
- 社内意識の共有・向上、対外的なPR
- ステークホルダー間の連携促進

メリット

- 市HP・動画等によるPR
- 入札の加点
- 制度融資の金利優遇
- 登録証の交付
- 金融機関や商議所による伴走支援

成果

01 登録者数：591事業者
（2024.11.1時点、第1次～第9次計）

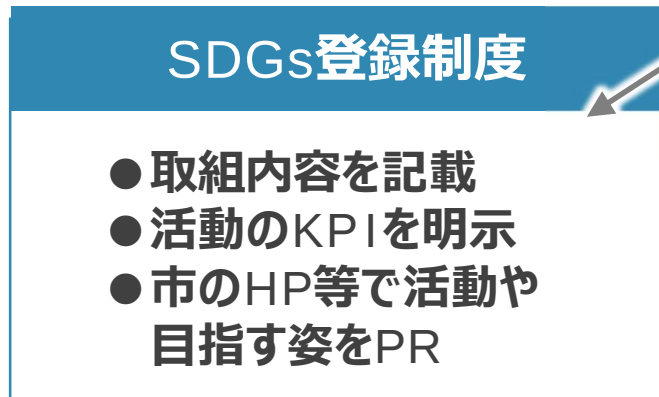
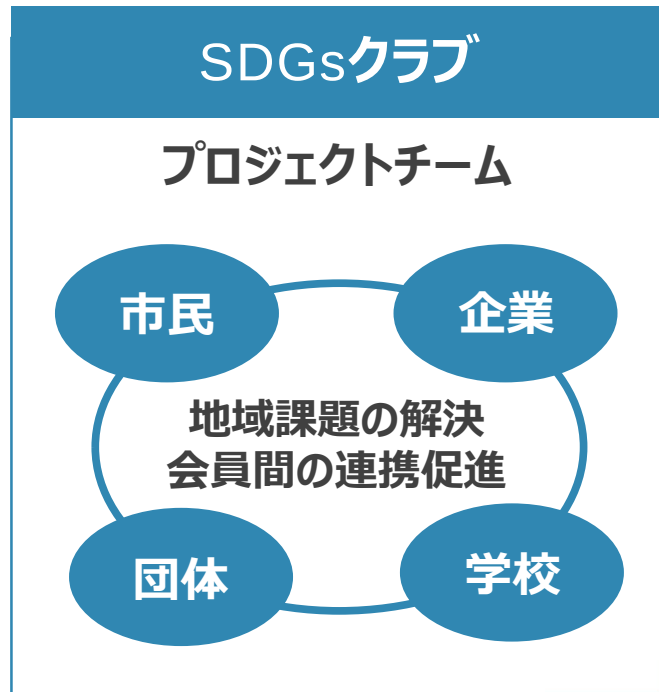
02 動画配信などによるPR

- 登録事業者を大学生が取材し、取組を発信
 - 登録事業者のPRと、他社のSDGs経営の普及
 - 地元学生が地元企業を知る機会の創出
- 市や金融機関のツールによる取組の発信
 - 就活の場等で取組を知る機会の創出
- 様々な媒体による取組の発信
 - 全国紙やSNSによる発信により広範なPR
 - 専用Youtubeを学校への出前講演等で紹介

03 金融商品との連動

- 市HPで公開している登録事業者の取組内容を参考に、金融機関が金融商品の紹介やコンサル等を実施

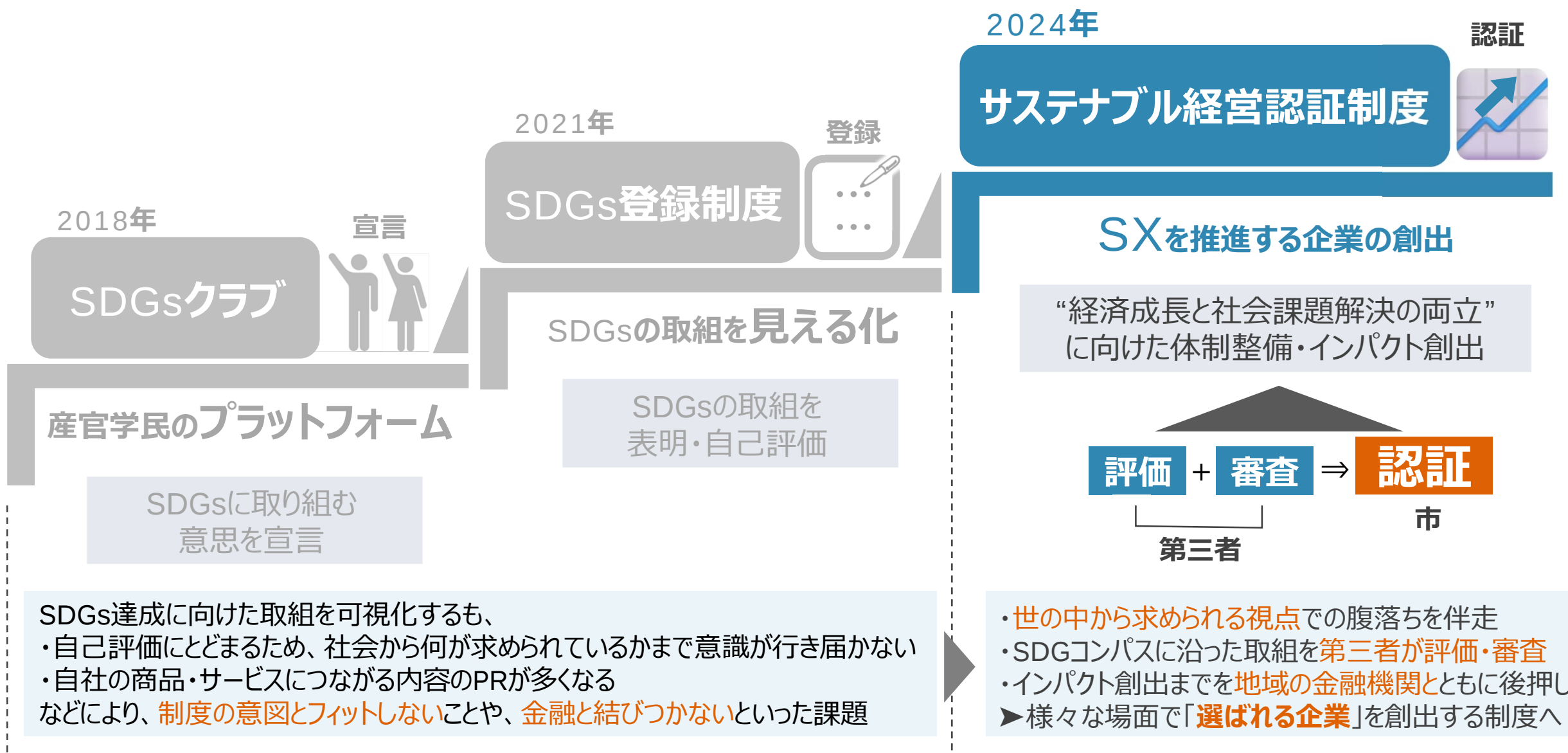
SDGsクラブ・SDGs登録制度による地域活性化の例



取組が広がり

- ・協賛企業が増加し、**協賛金のみで活動**可能
- ・高齢大工の**働く場**の継続した提供と、継続した**やりがい**の向上
- ・障がい者の**工賃アップ**（プロジェクト開始前に比べて**10%上昇**）
- ・北九州市内にとどまらず、**他都市の事業者とも連携**（スキームの提供）などにつながっている

北九州市の先駆的な取組



認証制度の概要（１）

企業等の課題意識

把握している課題
対応している課題

顕在的

様々な課題

経営課題
社会課題
地域課題

潜在的

気づいていない課題
対応が困難な課題
▶ 成長を阻害する要因

【認証制度】中小企業やスタートアップ企業等による自己変革

国際基準を踏まえた北九州市独自のフレームワーク

SXが必要な企業を取り巻く環境や課題を
企業自身が網羅的に把握・分析

ESG対応の自己診断・バリューチェーン分析

経営課題

社会課題

地域課題

自社の
強み
リスク

優先課題の特定

KPI・行動目標設定

ロジックモデル作成

企業等が自ら取り組み、市・商議所等が伴走支援

有識者

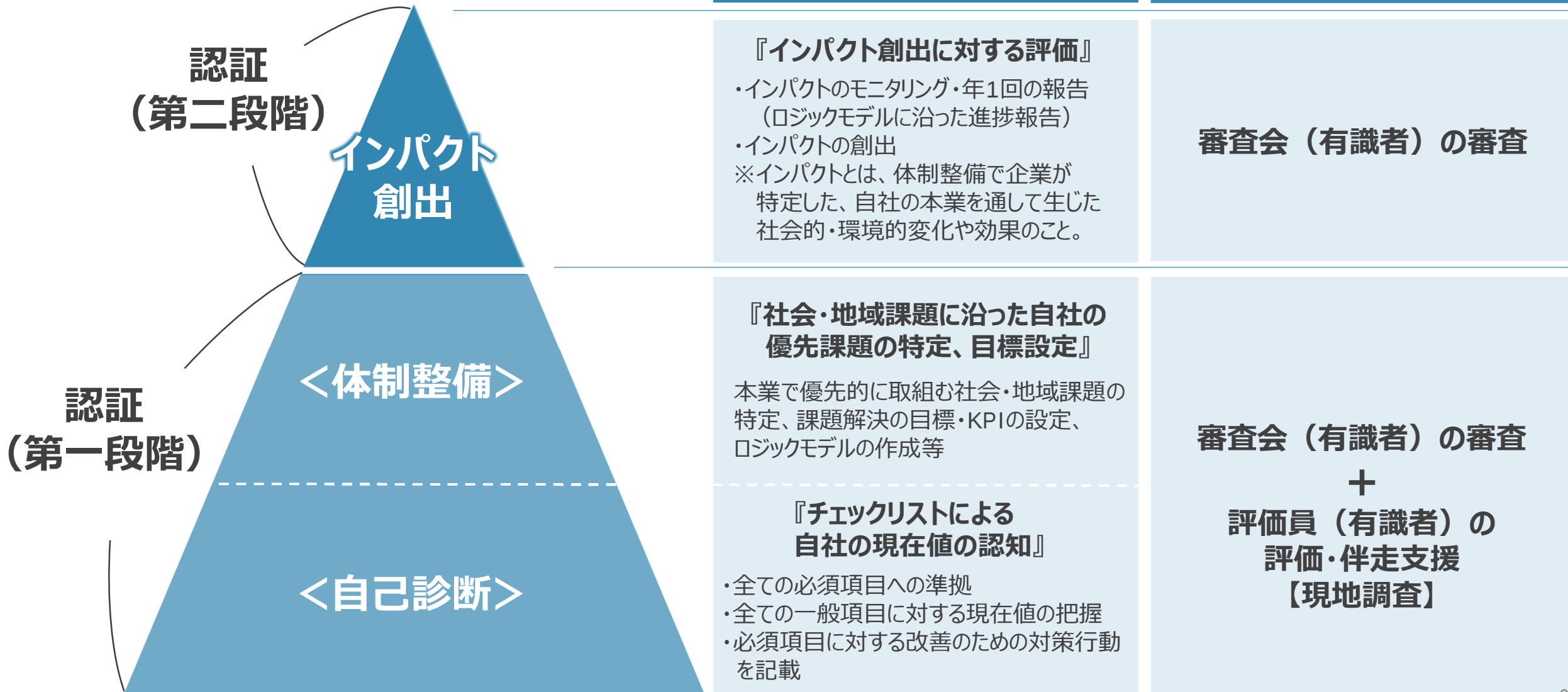
評価
・
審査

金融機関
大学教授
コンサル事業者
社会保険労務士
中小企業診断士等

北九州市

認証

認証制度の概要（２）



認証制度の効果

—— 現状（課題） ——



中小企業やスタートアップ企業による
ESG投資などの活用が困難



SXの観点から、企業も
社会課題の解決に取り組む必要



公的資金（補助金等）
を活用した事業がメイン

—— 取組後（解決） ——



地域金融機関と連携した
北九州市独自のフレームワークで支援



社会課題を踏まえた経営
の実践による**企業の成長**



金融機関等の投融資の促進により、
「民間資金」活用へ変革

認証制度に取り組むメリット

企業の成長

◎ 専門的知見を持つアドバイザーによる
伴走支援

- 社会課題を踏まえた
新規商品・サービスの開発

◎ 北九州市や専門家による**お墨付き**

- 取引上の**リスク軽減**
- **人材確保**



金融機関等による支援

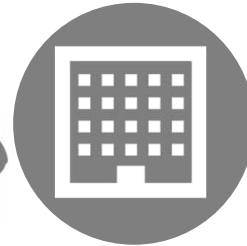
◎ 金融機関や投資家による
投融资の促進

(ESG投資やインパクト投資)

◎ サステナビリティパフォーマンス向上の
ための金融商品との連携

◎ 市内21の金融機関による支援
(市と個別協定締結の金融機関)

- **事業資金の確保**



国による支援

◎ 国の**利子補給制度**の活用

- 認証制度に取り組む際に
必要な融資について、
利子負担が軽減

